

# ナプロアース社長通信\_第 12 回

今回のテーマは「チームワーク」です。

新人社員研修を受けた方々は理解していると思いますが、当社の社訓と経営理念で取り上げている「和の精神」について、もう一度伝えておきます。「和の精神」とは、日本では古くから習慣としてあった共助の仕組みを「結いの精神」として伝わっているものです。

共助の仕組みとは、私が生まれる以前からあった日本の古き良き習慣です。例えば、田んぼや藁葺きの家を修理するには地域全体で手伝っていた風習や、田植えの際には近隣の方々の助けを受ける風習の事です。つまり、「和の精神」「結いの精神」が土台となった近隣地区での相互協力体制だったと言えます。

現代社会では団地やマンションなど大型居住が増えた影響か、限りある居住空間しかないため 3 世代から 2 世代だけで生活する核家族化が進み、あまりにも多い隣人に対して無関心となり、地域を大切にする心や隣人で助け合う精神が希薄になっていったのではないかと私は感じています。もちろん、この考えは私独自の目線なので間違っているかもしれませんが、核家族化が増えたことで、地域や隣人を思いやる気持ちより、今を必死に生きるため自分の事や自分の家族が最優先になってしまってしまったのではないのでしょうか。

しかし、私の人生経験から判断すると、世のため人のため地域のために時間とお金を使えない人は、本当の幸せを掴んでいないように思います。逆に使えている人は、様々な形となって報われた人生を送っている方が多いように思います。もちろん、だからと言って全てを犠牲にしてまでボランティア活動をすべきではありませんが、余力の範囲内で地域や人のために時間とお金を使っていくことは、「私は何のために生まれてきたのか」を考える上で大切な事だと思います。

「企業が存在を許されるためには法律を守ること」と同じように、「企業が存続を許されるためには社会貢献活動を続けていくこと」が重要だとピーター・ドラッカーは言っています。当社では地域貢献活動の一環として、会社周辺の清掃活動を定期的に行なっていますが、この活動がいつまでも続いていき「ナプロアースが、この地域で存続を許される」よう、積極的に参加して欲しいと願います。

また、様々な経験を通じて理解している事は、1 人の力は所詮 1 馬力にしかありません。10 人を 1 チームとして 10 馬力にすることは難しくなく、いろんな作戦や取り組みを行って 15 馬力や 20 馬力に変えていくことが、チームで戦う基本の姿勢だと思います。与えられた環境に不満ばかり言っている方をよく見聞きますが、自らは何も変えない考えで状況が好転するはずがありません。具体的な策を考え、自ら責任を取る覚悟を持ってチームを変えていく、そんな姿勢の人達が集まれば、簡単に 10 人で 20 馬力の会社にできると思います。

上司や先輩だけではなく、同僚や後輩に対しても人としての尊厳を守り、思いやりを持って接していく。誰から見られても誇らしい生き方をしている、人生を豊かに歩んでいく、そんな社員が大勢いる組織にしたいと願っています。最終的に自分の子供たちや孫を入社させたい会社を作っていく。これがナプロアースの究極の目標なので、全社員が同じ目標に向かって、ライバルと切磋琢磨しながら成長し続けていきたいと思います。

平成 30 年 5 月吉日 池本 篤